

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地 区	小野 地 区		市長・副市長の出席 市長・副市長
日 時	平成 30 年 7 月 20 日 (金) 19:00～20:40		場 所 小野公民館
地 区 参加者	和田源栄町自治会長(地区理事)、野田鈴連町自治会長、 高瀬三河町自治会長、権藤殿町自治会長、藤井振興協議会会長		計 23 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	行村 総務部長	副リーダー 永瀬 地区集会所所長
	プレゼン テーター	梶原 社会教育課長 宮本 施設工務課長	連絡調整担当 朝倉 小野振興センター長
	書 記	永瀬 地区集会所所長	
	構成員	河津 上津江振興局長	
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		梶原 社会教育課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		宮本 施設工務課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・ 土砂崩れのハード面は 1 年経って、ある程度測量工事等動き始めている。ソフト面で、
 - ① 今後小野地区はどうあるべきか。また、災害で今現在避難をしている人の対応策をどうしていくのか。
 - ② 今後地域の小野小学校をどうするのか。なくなると地域に大きな影響がでてくる。
 - ③ 自主防災組織の在り方について皆さんと考えていきたい。
- ・ 振興協議会の常任委員会でもこの 3 つの方向で審議していくところであった。
- ・ 先日、大分大学の先生、学生が来て、災害に関して小野地域は安全と言える場所が少ないと言っていた。危険を前提に小野地域を守っていくのが私たちの使命と思っている。
- ・ 災害はいつ起こるかわからないが、小野地域は南北に 10 キロと広い中で避難場所をどこにするのか難しい問題がある。

(回答)

- ・防災について、今ある課題で解決できるものは確認してやっていく。災害は起こるものだが、災害に関する情報をいかに皆さんに届けるかが課題となっている。昨年経験した災害においては、停電によりテレビが映らない、携帯の電源も切れた。
- ・今後もこのような状況が発生する可能性があることから、8月に衛星を介して皆さんに情報を届けるシステムの検証をする。特に小野、大鶴の谷間に電波が届くかの確認をしたい。このシステムはラジオ方式で、こちらから災害情報を流せば強制的にスイッチが入り、音声により情報を伝えるもので、耳が聞こえにくい方には、文字で表示する機能もある。
- ・昨年の災害時に一番困ったのは、小野地域からの情報が取れなかったことで、このシステムで市役所に情報が届く機能についても検討をしたい。
- ・災害のあった大鶴、夜明地区では、避難者用の集合住宅として、市営住宅を3戸建てる予定である。小野地区は協議中だが、避難している人たちのことを考えると、早急に対応を決めていく必要がある。市も集合住宅を含め施設は検討していくと考えている。地域の方や避難されている方々でしっかり議論していただきたい。
- ・新たな振興策として、産業の構築も今後必要と考えている。地形的なこともあるので県と話をしながら今後話を進めていく。小野谷10キロを一つの谷と考え、今後の地域の価値を考えて、新しく産業を創造することなど、復旧と合わせて聞かせていただきたい。

(意見)

- ・7月の梅雨時期に、避難することになるが、快適な避難所をお願いしたい。今みたいな暑さのときは、戸山中学校体育館では過ごしにくい。アオーゼは快適である。快適な避難所でない、避難指示等がでてでも住民が行かなくなると思う。

(回答)

- ・避難所の課題は承知しているが、緊急の避難は、命を守ることが第一。避難が3日、4日と長期化した場合は、アオーゼのような設備のある施設に移動するような避難所運営を考えている。

(意見)

- ・小野小学校の安全面について、100パーセント安全は難しいと思う。が、保護者がある程度納得できるような安全な措置を構築していただきたい。地域に子供の声を早く響かせたい。
- ・市指定避難場所について、遠いところは10キロ先となり、また一人ではないので避難が難しい。榑野より上流側の旧北小野小学校の校庭あたりに、源栄町、殿町の住民が避難できる安心な避難所をもう1カ所作っていただきたい。自主避難場所に老人憩いの家があるが裏の山が危ないので、避難せず自宅に残る人が多いと思う。

(回答)

- ・小学校の安全性については保護者と話をしているが、来年の2学期終了まで河川の改修状況等を見ながら話を進めていく考えである。
- ・老人憩いの家は、土砂災害特別警戒区域に入っていない。ただ、途中の道路が不通となり、分断する可能性はある。ことといの里にある竹工芸をしていた家屋が、昨年の状況でも水が上がらなかったもので、避難場所として適当ではないかと考えている。

(意見)

- ・小学校について来年2学期まで状況をみるとのことだが、保護者の方の希望か。安心できるように構築していただきたい。

(回答)

- ・本日、小野小学校について、そういう報告を受けたところである。

(意見)

- ・老人憩いの家を、自治会、民生委員の意見を取り入れ避難しやすい施設にしていきたい。

(回答)

- ・県道の改修も進めている。改修が終わると、より早く避難しやすくなる。

(意見)

- ・老人憩いの家の裏に大きな椎木があり、折れるのが怖いので、伐採できれば解決すると思う。
- ・老人憩いの家の前の小野保育園の講堂が十分使えるので、クーラー等整備が整えば源栄町と殿町の避難所として使えるかどうか。

(回答)

- ・小野保育園の講堂は、災害時、土砂が流れてくるかどうか調べる必要がある。

(意見)

- ・以前の災害時、安全と言っていた老人憩いの家に避難していたら、保育園のほうに避難するよう指示があった。河川に近いので、水が増えてまた元の場所に戻ったことがある。裏山に大きな木があるので、防災課で山主の所有者を全部調べてもらった。今後交渉して伐採を考えているが、あまり安全な場所ではないと思う。

(回答)

- ・老人憩いの家は、100パーセント安全とは考えないが、裏山の伐採について、間伐がよいか、全伐がよいか、どうしたらよいか安全面を含め検討する。

(意見)

- ・昨年の災害で老人憩いの家を7日間避難所として使ったが、トイレが少なく便槽が一杯となり、臭いがしたり、ハエがでたりしたので環境整備をしていただきたい。またクーラーがないし、長期になると板張りの上に薄い畳があると良いと思う。

(回答)

- ・去年、小野地区は孤立したので、孤立を前提として避難所の整備、在り方について検討したい。

(意見)

- ・小さい谷川が杉で堰き止められているが、整備はどうなっているのか。この前から入札が不調となった件は、どのようになっているのか。

(回答)

- ・谷川は、山の崩壊により被災している。基本的に災害復旧で国の補助事業で取組んでいるが、業者も仕事を多く抱えている中で、建設業協会の協力を得ながら早急な発注を考えている
- ・家屋に隣接した補助対象とならない小さな災害等は、市の単独事業で早期に取り組むので、情報等があったら提供していただきたい。調査して早急に取り組む。

(意見)

- ・小野地区の河川は約 60 か所崩壊して、未だ手がつけられていない。小野、大鶴で入札ができないのは業者の不足が考えられるが、今後どのようなになるのか。
- ・国の査定の降りている災害が、年度を過ぎたらどうなるのか。

(回答)

- ・小野地区で受けている査定が 14 か所くらいあり、小さいところを入れれば全部で 60 か所くらいある。細かな資料がないが、発注してすでに着手している場所もある。業者も仕事を多く抱えているので、一定期間工期を設けて契約している。今年度中に工事が終わるのは無理なので、国の繰越の制度を使い、31 年度中には完了したいと考えている。

(回答)

- ・現在、全体工事発注の約 70 パーセントが済んでいる。マンパワーが足りない状況なので、工事をしていないところもある。熊本県や朝倉市等近隣で災害が起きており、人材の確保が難しい。繰越の制度でも、工事が完了しないかもしれないので、特例を国にお願いしていく。

(意見)

- ・西日本新聞に載ったが工事の入札で 6 件の応札がないとあったが、小野地区で入札不調箇所があったか教えてほしい。

(回答)

- ・小野地区では、松山川、椰野川の災害復旧が 2 件入札不調だった。

(意見)

- ・鈴連町でがけ崩れがあったが、地域のハザードマップや水位計がない。安全・安心のため必要ではないか。

(回答)

- ・水位計は大鶴には県が設置しており、随時、設置していく。
- ・洪水予測は、気象庁のホームページで見ることができる。また、防災メールでも情報を発信しているので、ぜひ防災メールに登録していただきたい。毎月市報の 15 日号に防災メールの登録方法を掲載している。

- ・ハザードマップは、平成 20 年に作って、その後法律の変更により県が随時地域を調査している。日田市は 50 パーセント程終わったところであり、調査を終わったところから順次、作成していく予定としている。
- ・今後、皆さんが、どのような復旧、復興を望んでいるのか話を聞きたいと思う。別に、グループを設けて話すということであれば機会を作っていきたい。県の橋梁改修についても、原形復旧でなく、より安全な復旧となるよう考えていきたい。